

東京大学大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻青西研究室
特任研究員募集要項

- 1 職名及び人数： 特任研究員（特定有期雇用教職員） 1名
- 2 採用予定日： 令和 7年 4月 16日 以降
- 3 契約期間： 期間の定め： 有り
(令和 7年 4月 16日 以降 ～ 令和 12年 3月 31日)
- 4 更新の有無： 有り
更新する場合は、契約期間満了日の翌日に行い、以後 1年ごとに行うものとする。
ただし、更新はプロジェクト等又は業務の性質等により定める期間に限定され、
更新回数は 4回、在職できる期間は 令和 12年 3月 31日
を限度とし、以後更新しない。
※更新の判断基準： 予算の状況、業務の進捗状況、契約期間満了時の業務量、勤務成績、
勤務態度、健康状況等を考慮のうえ、判断する。
- 5 試用期間： 採用された日から 14日 間
- 6 就業場所： 東京大学大学院新領域創成科学研究科(千葉県柏市柏の葉5-1-1)
- 7 所属： 新領域創成科学研究科複雑理工学専攻青西研究室
- 8 業務内容： 半導体製造プロセスにおける不良化因子の定量評価手法の開発やプロセス最適化・革新
計測CREST・情報と計測の融合による半導体デバイス3次元実装技術の革新に従事。
変更の範囲：業務上の必要により配置又は業務を変更することがある。
- 9 就業日・就業時間 専門業務型裁量労働制により、1日7時間45分勤務したものとみなされる
- 10 時間外労働： 無
- 11 休日： 日曜日、土曜日、祝日法に定める休日、12月29日から翌年1月3日までの日、
その他特に指定する日
- 12 休暇： 年次有給休暇、特別休暇 等
- 13 給与： 俸給（月額）： 年俸制を適用し、業績・成果手当を含め月額 33～42万円程度
(資格、能力、経験等に応じて決定)
教育研究連携手当： 無
業績・成果手当： 有
通勤手当： 支給要件を満たす場合、当方規定により算出した額を支給（上限55,000円/月）
住居手当： 無
扶養手当： 無
昇賞給： 無
賞与： 無
退職手当： 無
超過勤務手当： 無
- 14 加入保険： 社会保険： 有 雇用保険： 有 (法の定めるところにより加入要件を満たした場合加入)
- 15 給与支給日： 月末締め、原則当月17日払い
- 16 応募資格： 博士の学位を有する方又は同等の能力を有する方
日本語、もしくは英語によるコミュニケーションが可能であること
何らかの科学分野において実験データ解析を経験した方が望ましい
今までと異なる研究分野へとキャリアを広げたい方を歓迎する
参考：関連サイト
https://www.jst.go.jp/kisoken/crest/project/1111118/111118_2024.html
- 17 提出書類： ・東京大学統一履歴書（以下URLからダウンロードし作成すること）
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/jobs/r01.html>
・研究業績の要旨（A4で1ページ程度）
・主要論文（2編以内）のコピー
・本人に関して意見を聞き得る方の氏名、所属、連絡先
※原則として応募書類は返却しません。
また、応募書類等により本学が知り得た個人情報、今回の職員採用の選考のみに
使用しますので、予めご了承願います
- 18 提出方法： 上記書類の電子ファイルを問い合わせ先にメール送信すること
2～3日以内に当方から受信確認メールが届かない場合はお問い合わせください。
- 19 応募締切： 令和7年5月30日（金） 12時必着 採用者が決定次第、締切とさせていただきます。
書類選考の上、合格者に対し面接を実施します。面接時の旅費支給はございません。
なお、面接はオンラインで行う場合もございます。
- 20 採否の通知： 電話又はe-mailで個別に連絡します。
- 21 問い合わせ先： 〒277-8561 千葉県柏市柏の葉5-1-5 基盤棟3H6 (Mail Box708)
東京大学大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻青西研究室
担当： 青西 亨
TEL: 04-7136-3903
e-mail: aoishi@edu.k.u-tokyo.ac.jp
- 22 募集者名称： 国立大学法人 東京大学 大学院新領域創成科学研究科
- 23 受動喫煙防止措置の状況： 敷地内禁煙(屋外の指定区域に喫煙場所あり)
- 24 その他： 取得した個人情報は、本人選考以外の目的には利用しません。
「東京大学男女参画加速のための宣言（2009.3.31）」に基づき、女性の積極的な
応募を歓迎します。
採用時点で、外国法人、外国政府等と個人として契約している場合や、外国政府等から
金銭その他の重大な利益を得ている場合、外為法の定めにより、一定の技術の共有が制
限され、結果として本学教職員としての職務の達成が困難となる可能性があります。こ
のような場合、当該契約・利益については、職務に必要な技術の共有に支障のない範囲
に留める必要があります。